

第十七回日米安保運用協議会に関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によつて提出する。

昭和五十年十月二日

秦

豊

参議院議長 河野謙三殿

第十七回日米安保運用協議会に関する質問主意書

- 一、去る六月二十一日、第十七回の安保運用協議会が開かれた事実があるか。
- 二、当日の出席者を日米双方にわたつて明らかにされたい。
- 三、その席上、日本側からいわゆる防衛分担のアウトラインやかなり精細な任務分担についてメモを提出したものと仄聞しているが、その内容を提示されたい。
- 四、又その日本側試案に対するアメリカサイドの反応についても同時に明らかにされたい。
- 五、日米安保条約第五条、発動時の憲法解釈をめぐつて意見が交わされたものと思われるが、その際の日米双方の主な論点を提示されたい。
- 六、関連して在日米軍基地、特に岩国、嘉手納、横田、横須賀等の有事に於ける運用についてアメリカ側の積極的な要望が述べられたものと思うがその間の応酬を明らかにしてもらいたい。

七、いわゆる日米間の防衛分担構想はすべて日米安保運用協議会の場で煮つめるのか。

それとも最終的な仕上げや確認は改めてより高度な政治的場を設定することによつて行うのか、方向と方針は如何か。

八、更に、防衛分担構想は少くとも今年内に一応の成案を得べく作業中ではないのか。メドをどの辺りにおいていいのか明らかにされたい。

右質問する。